



KCJS ニュースレター



<http://www.kcjs.jp/>

2016年 春学期 第10号



博物館ボランティア

レジナ・ホン

(イェール・国立シンガポール大学)

今学期、KCJS 理事長のスミス先生のおかげで、京都工芸繊維大学美術工芸資料館でボランティアをしています。私は歴史を専攻して美術についてよく知らなかったもので、最初に美術館でのボランティアにはためらいがありました。しかし、資料館長の並木先生が励ましてくださったので、毎週の月曜日に3時間ぐらい資料館で仕事をすることにしました。私の仕事は主に運営のお手伝いですが、中国語のポスターを日本語に翻訳することや、新しい展示会のチラシと案内の送付準備など、思った以上に色々なことをさせてもらっています。

私は、そもそも博物館と美術館の事業についてさらに知りたかったので、運営業務がその知識を高めるためにはぴったりの仕事だと思えます。また、スタッフの方二人と一緒に話しながら、美術の定義について考えるようになりました。スタッフの一人によると、ポスターはよく複製されるため集める価値がないと思われているので、ポスターを集める美術館はまれだそうです。その結果、私は、美術が一体、誰に向けられるべきだろうかということについて好奇心を持つようになりました。

今学期のボランティア体験を通して、これからも美術への関心がさらに高まると思います。京都工芸繊維大学美術工芸資料館でボランティアができることに、心から感謝しています。

CIP とは

学生たちが、ボランティア等を通じて、日本の地域社会とつながりを持つプロジェクト。それぞれが興味を持っている活動を選んで参加する。

脳科学の研究

ジョン・ウェブ

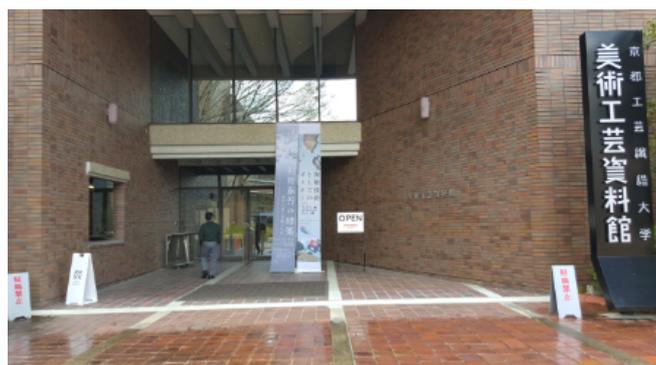
(ワシントン大セントルイス校)

CIP として生活リズムに関する研究をしている京大の脳科学の研究室で働いています。研究の問いはどのようにして毎日同じところに眠くなって、目が覚めるかということです。詳しい答えが見つかったら、健康を維持する上で役に立ちます。

この活動を通して、色々アメリカの研究室の文化との違いが見えてきました。例えば、アメリカで研究する時間は大抵9時から5時までですが、日本では9時から9時までです。主任教授は毎日午前2時まで働いています。

日本では、研究室間の関わりも少ないようです。アメリカでは、毎週金曜に同じ階の人が集まってパーティーをしますが、日本では同じの階の他の研究室の人を全然知りません。また、性差別も多いようです。アメリカの研究室では5割が女性なのに対して、京大の私が行っている研究室では女性は2割ぐらいです。

このように色々な違いを知ることができ、いい経験になりました。



京都工芸繊維大学美術工芸資料館

空手

サミュエル・ワクテル(タフツ大学)

私はCIPで、京都大学の空手部に入った。日本に来る前、空手を10年ぐらい練習していたので、大学の空手部のようにもっと厳しい経験がしたかった。

アメリカでは、日本の文化が分かるために、自分を守るために、空手道を習う。

日本ではもちろん、そのような伝統的な道場もある。しかし、大学の空手はすごくスポーツとしての空手が強調されているのではないだろうか。習っている空手は、私がアメリカで習った空手と少し違うが、空手部が大好きだ。家族のように仲がいい。誰でも一緒に組み手をしてくれるし、空手だけでなく日本語も助けてくれるし、毎日食べに行くから、本当に友達になった。日本の大学の空手部の方が、アメリカのクラブより家族みたいだ。それは一番好きな事だ。



和食と三味線

ジミー・シェコウィッツ(ボストン大学)

和食か三味線を習いたいと思っていましたが、幸いなことに、CIPとして両方できました。

まず、一ヶ月に一回、烏丸御池駅の近くの京都クッキングサークルという料理教室に参加しています。その教室では「きりたんぼ鍋」などのレシピを習いながら、日本人の大学生やお年寄りと一緒に習います。そういう訳で、作り方だけでなく、日本の文化も学べます。例えば、教室の先生が自分の小学生の子供に包丁で野菜を切らせるのを見て、アメリカの子供より日本人の子供の方が責任を持たせてもらえることが分かりました。

また、一ヶ月に三回ほど大阪府の茨木市に行って、千村先生という方のもとで三味線の弾き方を習っています。「炭坑節」や「津軽じょんがら」などの曲を習いました。バチを使うのが難しく、まだまだ上手にできませんが、三味線を弾くのは楽しいので、出来ればアメリカでも習い続けたいと思います。

CIPのおかげで、ずっと習いたいと思っていたことを習えてよかったです！

ホストファミリーと私

ローレン・ガズ(ミシガン大学)

実は、留学前は、ホストファミリーのことは、一番楽しみにしていたことでもあり、一番緊張していたことでもあった。でも、ホストファミリーと会った途端、そんな緊張はなくなった。私はホストファミリーにすぐ迎え入れられた。二日目の晩に、お父さんと一緒にバーに行ってお時間も話した。コンサートに行ったこともある。日本に来る前は、ホストファミリーのお父さんは口数が少ないだろうと思っていたが、見当違いで、お父さんは、すぐ私の友達になってくれた。毎日、家に帰ると、台所で勉強しているが、ホストファミリーもそこにいるから、発音や正しい箸の使い方まで色々教えてくれる。本音で何でも話せる関係で、時々賛成できないこともあるけど、本当の家族のように話す。お母さんは私に「今、ローレンはガズ・ローレンじゃなくて、杉本・ローレンだ」と言ってくれ、お母さんの誠意が本当に嬉しかった。ホストファミリーのおかげで、母国語が少ししか話せなくて、一人も知らない国に住むことは、怖くて大変な経験ではなかっただけでなく、京都が私の二つ目の故郷になった。ホストファミリーの恩は一生忘れない。

大原散策

エレン・ド(ボストン大学)

三月の後半、京都は少し曇っていたけど、やっと暖かくなったので、日本人学生を含む小さなグループで大原に行って楽しんだ。京都は東京と違い、安らかで自然が多くてきれいだが、時々田舎に行くのはいい。忙しすぎる時は京都の景色でも足りなくて、田舎の完全な静けさが爽やかだ。

最初に三千院に行った。歩きながら話したり景色の写真を撮ったりして、楽しかった。花はまだ咲いてなかったが、三千院はきれいだった。三千院の中に尾所極楽印という建物がある。この建物は985年に立てられて1153年に改修された。昔、京都は沢山の火事があったから、とても古い建物はないが、大原にはこの建物がまだあるということは凄いと思う。

その後で、ある寺に行ってお茶を飲みながら寺の庭を見た。街から離れて静かに自然を楽しめてよかった。



長崎旅行

レーセン・はな(プリンストン大学)

2月4日から2泊3日で、KCJSの皆と長崎に行きました。私にとって長崎で一番印象に残ったのは、様々な国の影響でした。例えば、長崎の中華街に行き、中華料理の影響がある美味しいちゃんぽんを食べました。それから、グラバー園で、日米両方の建築の特徴をもつ家を見て、非常にきれいだと思いました。また、江戸時代に唯一外国に開かれていた出島も、外国との様々な文化的交流をよく表していたと思います。

さらに、長崎のもっと悲しい歴史のある場所に行くのも、興味深かったです。長崎原爆資料館で、日本の視点から第二次世界大戦について学ぶのは、暗澹とする経験ではありましたが、とても大切だと感じました。また、軍艦島で建物などのひどい状態を見て、島に住んでいた人々の大変な生活について考えずにはいられませんでした。

長崎を訪問することによって、日本の歴史と文化をより深く理解できるようになったと思います。この旅行のおかげで、長崎は本当に興味深い所だと気付きました。



Minorities, migration and globalization in contemporary Japan

ヴィクトリア・ティソット(バーナード大学)

今学期、KCJSの学生は「Minorities, migration and globalization in contemporary Japan」というクラスを取る機会があります。その授業の中で、「本当の日本人は誰ですか」「日本は本当に単一民族の国ですか」「どうして移民にとって日本で暮らす事は大変ですか」といった話し合いをしました。このクラスでは日本に住んでいるマイノリティの歴史や、マイノリティに対する態度や、移民のパターンや、ビザの法律、そして、日本人がどのようにアイデンティティについて考えるかを学びました。

日本の友達

サラ・オコーネル(プリンマー大学)

私は加藤なつきという友人を紹介したいと思います。なつきちゃんは京都大学で化学を勉強している二年生です。妹さんが二人いて、名古屋市で育ちました。私は日本語がわからない時も悲しく感じる時も、いつもなつきちゃんのおかげで、元気になれました。

春休み、しばらくなつきちゃんの家泊まりました。その時、なつきちゃんが一番影響を受けた人について話しました。中学の時、なつきちゃんは学校の先生になりたかったのですが、なつきちゃんの性格をよく知っている担任の先生が、学者になりなさいと言ってくれました。そのおかげでなつきちゃんは研究者になるという夢を見つけました。研究者という道を知り、たくさんの人々に出会い、助けられて、なつきちゃんは有機化学の研究者を目指しています。なつきちゃんはとても偉い人なので、私はなつきちゃんのような人になりたいと思います。

ランゲージパートナー

ボハン・リ

(ボストン大学)

私のランゲージパートナーは細見早希さんです。同志社大学の三年生で、専門はグロー



バル&リージョナル研究です。子供の時からずっとバレエをしていて、大学からチアサークルに参加して、いまはバレエ教室で子供たちを教えています。早希さんはいま大阪に住んでいます。性格も関西人らしく外向的で率直な性格です。ですから、早希さんと一緒にいる時はいつも楽しいです。私たちは週1回会って、よく旅行について話します。この前私が大阪に行った時、早希さんはいろいろなアドバイスやお勧めをしてくれて、本当に助かりました。早希さんは四月から台湾に留学するつもりなので、私は台湾に留学したことがある友達に聞いて、台湾の情報を教えてあげました。お互いに助けて合って、いい友達になりました。1学期は短かったですが、早希さんのおかげで、本当に楽しかったです。早希さんと会えてよかったと思います。

Go KCJS!

みなさん、おめでとうございます！

《就職・進学》

ロバート・ワーサイムさん(KCJS20 通年 ケースウェスタンリザーブ大学) LINE 東京本社

ジェームス・ゲリンチェンさん(KCJS21通年 デューク大学)

コロンビア大学博士課程(日本史)

カーシャ・リンチ(KCJS10通年 ボストン大学)HIROTEC America

上の三人が KCJS に来て Alumni Talk をしてくれました。

ジェイソン・ベックマンさん(KCJS21 秋学期 ブラウン大学)

スタンフォード大学の博士課程に進学予定(日本文学)

ロザリー・ガイさん(KCJS26 通年 シカゴ大学)

Institution for a Global Society x Z-kai(東京)に就職

イフェ・サムズさん(KCJS26 通年 ビンガムトン大学)

ニューヨークのブルックリンで歌手として活動中。夏にはアメリカ南部でツアー開始。



《JET プログラム》

ヘイリー・ボルクさん(KCJS26 通年 コロンビア大学)

ジャック・ライオンズさん(KCJS26 通年 ハミルトン大学)

マイルス・ボスウェル(KCJS25 通年 ワシントン大学セントルイス)



《日本語能力試験1級合格》

ユキ・インさん(KCJS27 秋学期 ボストン大学)

エンジェル・ムイさん(KCJS27 秋学期 コーネル大学)

KCJS27 春学期 学生賞 中間投票結果

学生たちによる中間投票の結果、以下の学生が現時点で1位から3位に選ばれています。

①日本語をよく使っているで賞

ニコール・ベルトツツイさん(シカゴ大学)

サム・ワクテルさん(タフツ大学)

王月瑋さん(プリンマー大学)

学期末の本投票で選ばれた人には、賞金が出ます。

②日本の社会によくとけ込んでいるで賞

ニコール・ベルトツツイさん(シカゴ大学)

ローレン・ガズさん(ミシガン大学)

デラ・ルースさん(ワシントン大学セントルイス)

KCJS27 夏の研究助成金 受賞者

ニコール・ベルトツツイさん(シカゴ大学) サム・ワクテルさん(タフツ大学)

ベルトツツイさんは春学期の Independent Study をもとに、さらに茶道について研究をすすめる予定です。

ワクテルさんの研究テーマは、空手の歴史です。